

III

前計画の取り組み実績

岡山市ふれあい公社では、中期計画（R3～R7）において、基本理念を実現するための経営方針や、3つの大きな実施計画を軸とした各種事業を推進し、現在に至っています。

次期中期計画（R8～R12）の策定を行うにあたり、前計画の実施期間となる令和3年度から令和7年度の状況を振り返ります。

1 地域の福祉力を高める

地域の福祉力とは、地域住民がお互いの多様性を受け入れ、協働の場を通じて住民が自ら地域のあり方を構想し、構築していく力のことです。

財団は、地域住民が主体となって継続的に活動できるような意識の醸成や人材の確保・育成、居場所づくり、そして、健康増進・介護予防の意識の向上等を通じて地域づくりを進めており、高齢者・障害者・子どもをはじめ、あらゆる人への総合的な支援を行ってきました。

各分野を横断する課題に対応するため、財団の医療・福祉専門職と各専門機関等とのネットワークを強化するとともに、今まで培ってきた福祉サービス運営のノウハウを生かして「地域共生社会の実現」に向けて役割を果たし、効果的な支援と地域に根差したサービスの更なる展開・推進に努めました。

1 地域を支える人材の育成と活動の支援

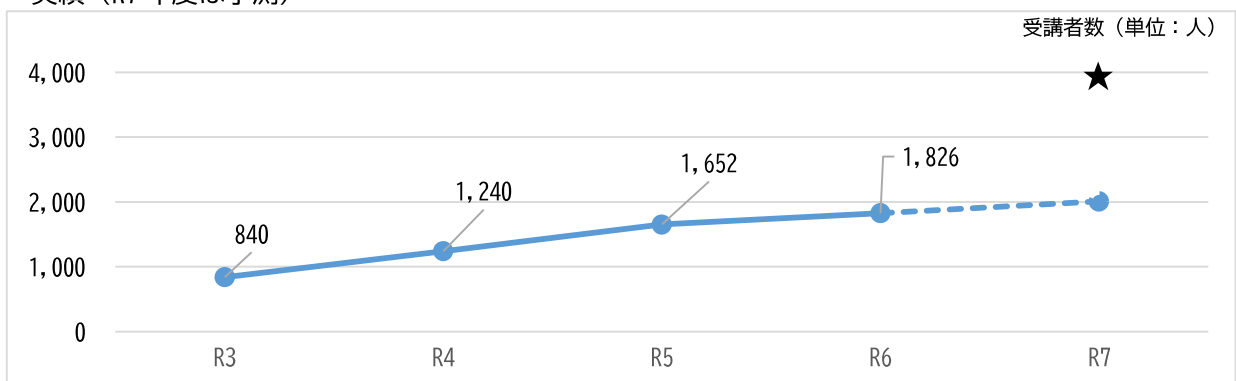
地域の福祉力向上のため、福祉、介護や子育て等の情報・技術・知識をもった人材やボランティアを育成する講座を実施しました。また、事業を適宜見直し、改善しながら地域との連携を強化することで、地域ニーズに対応した取り組みを進めました。

○●設定された目標●○

◆質の高い福祉人材の養成（福祉人材養成講座等の受講者）

R7 年度目標値：★4,000 人

・実績（R7 年度は予測）



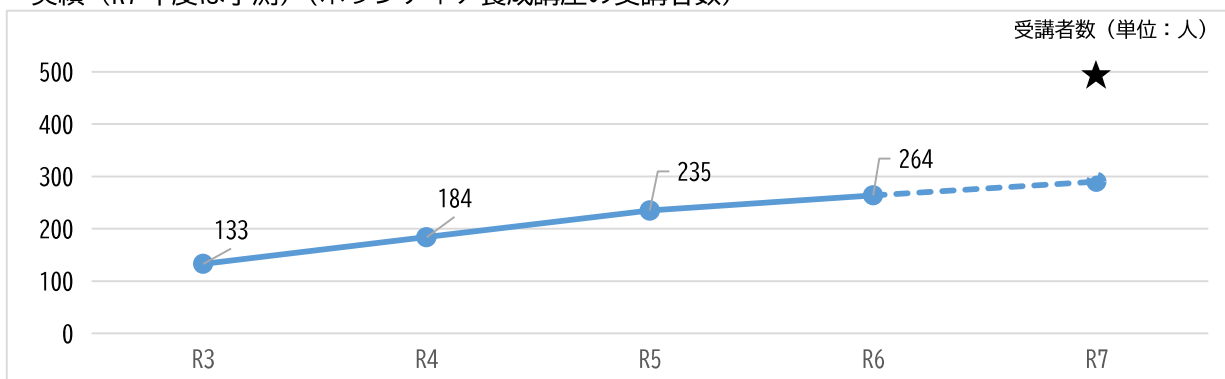
取り組みの達成状況及び考察

地域を支える質の高い専門職の養成を行いました。
コロナの影響で減少した受講者数は回復基調にありますが、目標値とは大きな乖離が生まれました。受講希望者に十分な講座情報が行き届いていないことや、介護の現場では慢性的な人手不足で、日中業務から離れられないといった状況も推察されますが、その対策として、現場のニーズを反映した研修テーマの再検討、設定日時の見直し、メールやSNSを活用した継続的な広報のほか、オンライン講座の拡充やオンデマンド形式研修の構築等による参加機会の拡大を進めていくことが重要と考えています。

◆地域を支えるボランティアの養成

R7 年度目標値：★500 人

・実績（R7 年度は予測）（ボランティア養成講座の受講者数）



取り組みの達成状況及び考察

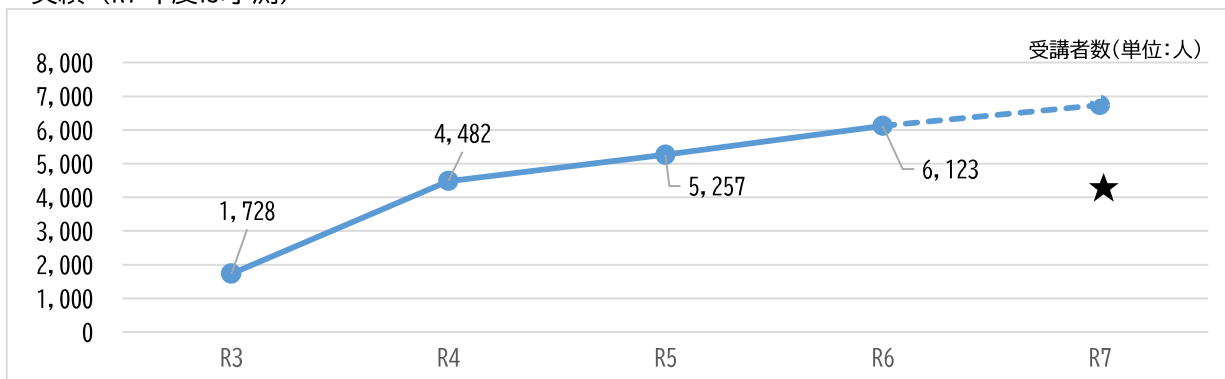
誰もが安心して生き生きと暮らせる地域を支える人材を育成しました。受講者数は目標までの人数には達していません。

特に若年層の参加率は低く対策は重要となりますが、活動未経験の潜在的ボランティアにアプローチできる講座の企画や広報力の強化、年代別のニーズを反映した多様な研修テーマの再検討のほか、修了後の活動イメージの明確化や活動場所の紹介を行う等、全体的な改善が必要と考えています。

◆認知症サポーターの養成人数

R7 年度目標値：★4,200 人

・実績（R7 年度は予測）



取り組みの達成状況及び考察

認知症の人が地域で安心して暮らせる社会を目指し、認知症について正しく理解し、当事者やその家族を支えるための「認知症サポーター」を育てる講座を行いました。

オンライン受講を可能にし、小学校や企業へ広報を拡大する等年度ごとに様々な工夫を行った結果、受講者数は R4 年度には目標達成することができました。

認知症の人の数は今後も増加することが確実視されており、認知症サポーターの養成を引き続き行っていきます。

◆その他取り組み事項

| 重点取り組み項目 | 具体的検討例 | 実績等 |
|---------------------|------------------------------|---|
| 地域とつながり活躍できる人材の育成 | 地域ニーズを反映させた即戦力となる人材の育成や講座の実施 | ・生活支援訪問サービス従事者研修の実施 ・傾聴ボランティア入門講座の実施 ・子育て応援ボランティア養成講座の実施 |
| 子どもが地域社会へとつながる活動の支援 | 子どもを地域の一員として育てるための支援 | ・親子福祉体験講座の実施 ・小中学生の職場体験や学生ボランティアの受け入れ ・認知症キッズサポーター養成講座の実施 |
| 認知症への理解を深める活動の支援 | 地域の支え合い活動の支援と人材の育成 | ・認知症介護実践研修の実施 ・認知症サポーターステップアップ交流会の開催、キャラバン・メイト フォローアップ研修会の開催 |

2 地域とつながる福祉の拠点づくり

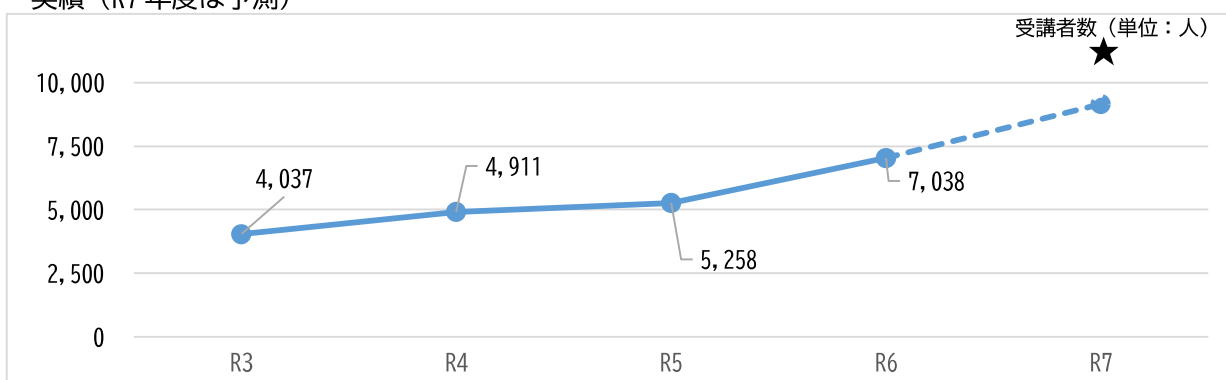
市内5か所のふれあいセンターと岡山市ウェルポートなださきは、高齢者・障害者・子育て世帯などあらゆる人を対象とした講座やイベント等の事業を行う施設として活用されています。誰もが集うことのできる「通いの場」として定着を図り、地域の福祉拠点としての役割をさらに強化・推進しました。

○●設定された目標●○

◆高齢者・障害者の通いの場づくり（高齢者・障害者対象の講座・イベント等参加者数）

R7年度目標値：★11,000人

・実績（R7年度は予測）



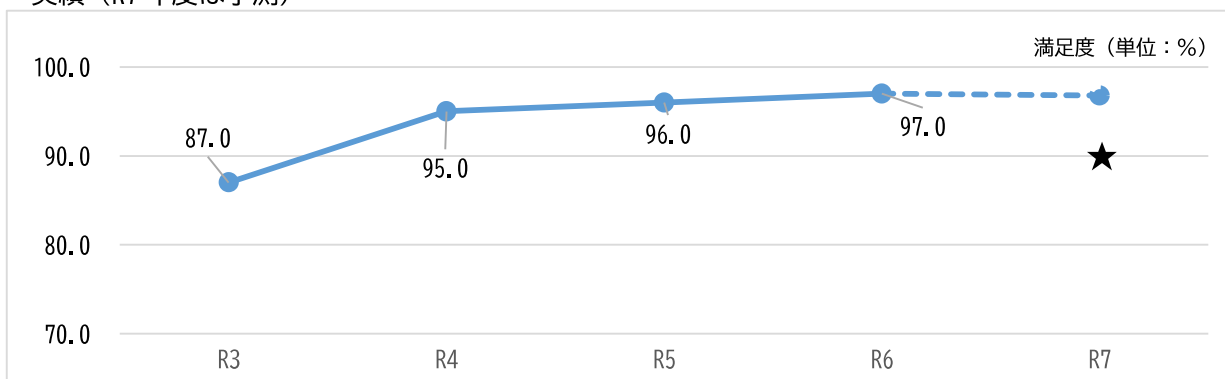
取り組みの達成状況及び考察

高齢者や障害者の方の生活の質の維持・向上や社会活動の機会として生きがいづくりを目指す「通いの場」を創出しました。
 社会情勢の変化のもと、高齢者や障害者の方が、人が集まる場所へ出向くこと自体に感染リスクへの不安が根強く残っていたことや、様々な生活様式の変化によって、通いの場に参加することへの習慣が薄れてしまっていること等が懸念されました。そのような中、講座作品展の実施等によって運営方法を工夫し、参加者のモチベーションに働きかけるような取り組みを行い、当初目標は未達の見込みとなりましたが、上昇基調とすることができました。

◆児童館利用者の満足度

R7 年度目標値：★90%

・実績（R7 年度は予測）



取り組みの達成状況及び考察

児童館利用者アンケートにより満足度調査を行い、こどもたちが健全に安心して過ごせる居場所の充実を目指しました。

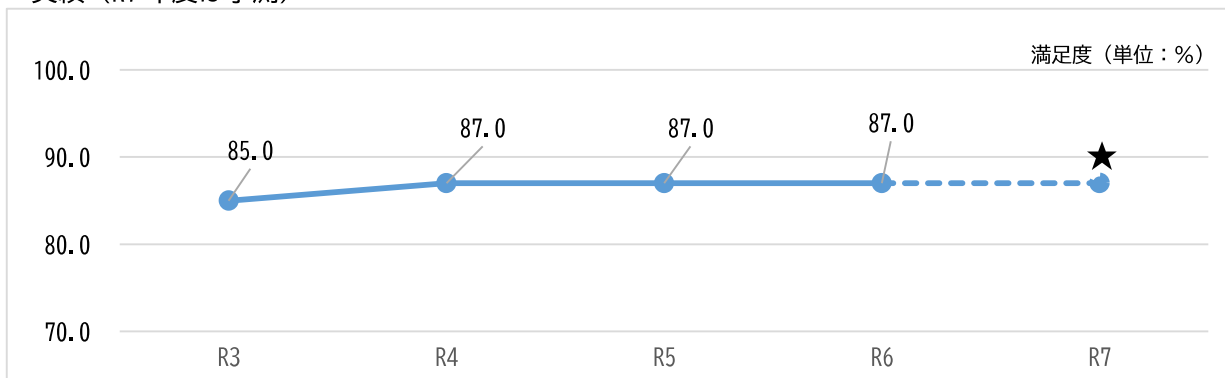
研修による職員の人材育成や、ニーズに対応した各種イベントを行い、サービスの質の向上を図っていること、また、子育て世帯の様々な利用のケースに合わせて環境を設定し対応していること等が高い満足度の維持につながったものです。

近年は、子育てを行う保護者や小中学生等幅広い世代への広報の充実のため、Instagramの活用に取り組む等、広報活動にも改善を加えました。様々な子育て支援団体とのネットワーク構築に努めることで内外のニーズ変化にも柔軟に対応しており、利用者満足度の向上に資するものと考えられます。

◆施設利用者の満足度

R7 年度目標値：★90%

・実績（R7 年度は予測）



取り組みの達成状況及び考察

施設利用者満足度は、ふれあいセンター等の施設利用者へのモニタリングにより調査を行いました。利用者満足度は低くはないものの、目標は未達の見込みとなりました。満足度をもう1段階上げていくためには、利用者のモニタリングからニーズの検証を行い、具現化していく必要があります。

施設のハード面では老朽化した設備の改修や、誰もが使いやすい施設環境の改善を行いつつ、ソフト面では職員教育を継続して窓口対応力の強化を図りながら、モニタリングによって得られるニーズを把握してサービスに反映させるよう努めます。

◆その他取り組み事項

| 重点取り組み項目 | 具体的検討例 | 実績等 |
|-------------------------|--------------------------|--|
| 健康増進の拠点づくり | 施設を活用した健康維持・増進の場の提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種健康づくり講座の実施 ・アスレチックコーナーの運営 ・あっ晴れ！もも太郎体操 地区別交流会の開催 |
| | 他業種との連携による、地域活性型の活動場所の拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ・フレイル予防講座を開催（介護予防センター） ・サロン交流会（社会福祉協議会）、健康市民おかやま 21（保健センター）等のイベントへの参加 |
| 情報の提供やイベント開催等による集いの場づくり | 施設を活用した連携事業の開始 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体と協力したイベントの開催 ・保健センター職員へ子育て講座の講師を依頼 ・オレンジクロスプロジェクトの実施 |

3 地域と取り組む介護予防・健康寿命の延伸

介護予防センター事業では、専門職による運動機能、口腔機能の向上等を取り入れた介護予防教室の実施、地域主体で取り組める「あっ晴れ！もも太郎体操」の普及・啓発やフレイル予防の普及・啓発等を行い、介護予防につながる地域づくりを支援しました。

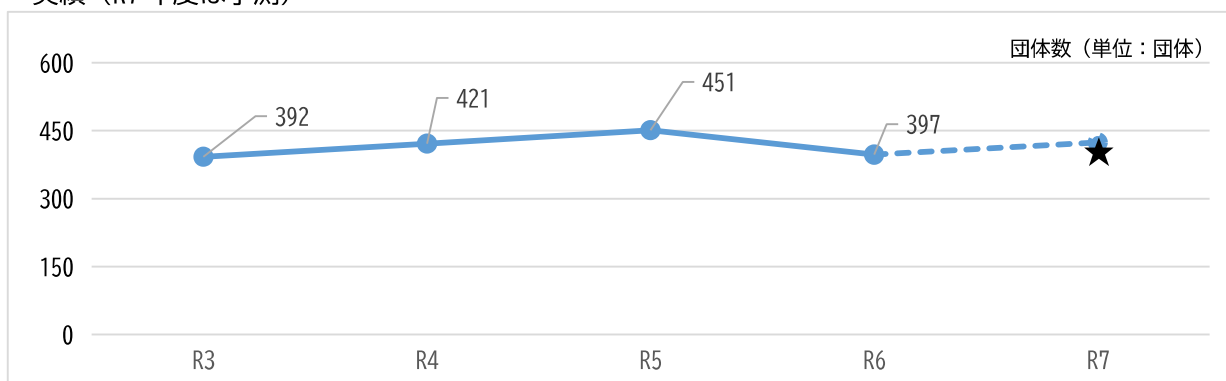
また、ふれあいセンター等においても、高齢者に限らず、運動習慣のきっかけづくりや健康意識の向上のために、市民が気軽に通える初心者向けプログラムの講座や、講演会の実施、運動施設（アスレチックコーナー等）の運営等を行い、市民の健康寿命の延伸に取り組みました。

○●設定された目標●○

◆あっ晴れ！もも太郎体操 実施団体数

R7 年度目標値：★400 団体

・実績（R7 年度は予測）



取り組みの達成状況及び考察

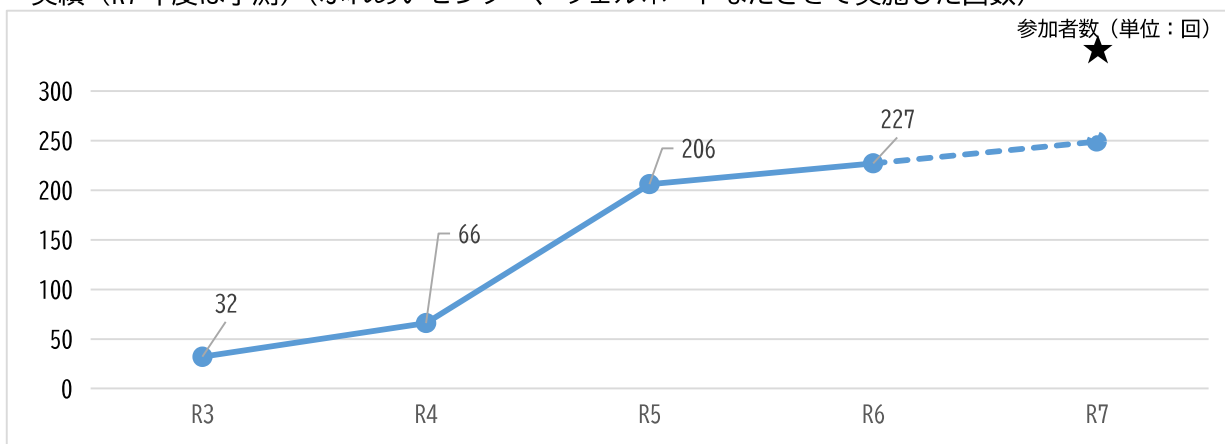
地域住民が介護予防活動を自主的に継続して取り組めるよう、その手段として「あっ晴れ！もも太郎体操」を活用してもらい、心身機能の向上と仲間とともに介護予防活動を通じた通いの場づくりを推進しました。

活動を一時休止している団体にも継続してアプローチを行い、活動再開の支援を行ったほか、重点地区を設定し、関係機関の協力も得ながら新規団体の立ち上げ支援を行いました。近年はクリニック等の医療機関や小規模多機能施設等を会場とする新たな団体も増えつつあり、活動団体数は目標達成する見込みとなりました（R6 年度からは岡山市への報告内容に合わせて完全休止団体数を除外した数値としています）。

◆フレイル対策の普及啓発活動

R7 目標値：★330 回

・実績（R7 年度は予測）（ふれあいセンター、ウェルポートなださきで実施した回数）



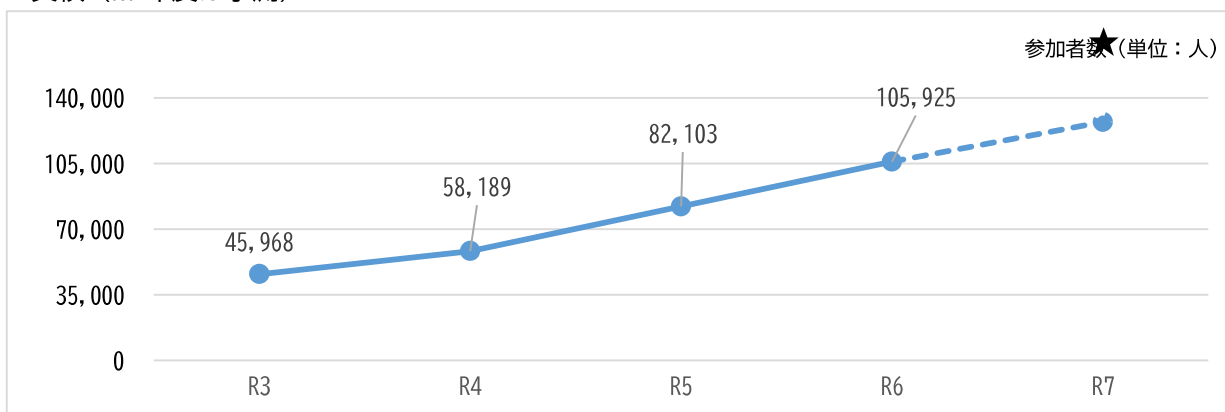
取り組みの達成状況及び考察

通常は地域に出向いて行うフレイル健康チェックやフレイル予防の啓発活動を、ふれあいセンター等の来館者に対しても実施しました。R3 年度は緊急事態宣言による施設利用の制限・イベントの中止が生じ、来館者への普及啓発の機会が減少しました。講座・イベントの再開に伴い、実施回数は増加しましたが、目標回数までには至らない見通しです。

◆介護予防・健康寿命延伸への取り組み（健康づくりや介護予防に関する講座やイベント参加者数）

R7 年度目標値：★145,000 人

・実績（R7 年度は予測）



取り組みの達成状況及び考察

住民が自分の状態にあった健康維持・増進サービスを継続的に切れ目なく利用できるよう、健康づくりや介護予防に関する講座やイベント等を実施しました。

出先で行う介護予防センターの介護予防教室では順調に参加者数を伸ばしたものの、ふれあいセンター等で行う講座・イベント等においては施設の改修工事等で会場に一部利用制限があったほか、講座・イベント等においても変化した生活様式からの回復に時間を要したことにより、目標参加者数には至らない見通しとなりました。

今後、ニーズの見直しや新たなPR手段を検討し、より多くの方に参加いただけるよう努めます。

◆その他取り組み事項

| 重点取り組み項目 | 具体的検討例 | 実績等 |
|------------|--------------------------------------|---|
| 介護予防事業の推進 | 機能強化による事業の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関へ介護予防について情報提供 あっ晴れ！もも太郎体操の推進 介護予防センター職員によるアドバイス訪問の実施 |
| 心身の健康意識の醸成 | 健康づくり講座において、効果の分析・検証のためのアンケートやデータの収集 | <ul style="list-style-type: none"> 講座アンケートの収集 運動系講座で筋力測定を実施した効果の検証 フレイル健康チェックのデータの収集 |
| | 市民の健康づくり支援を目的とした財団組織連携会議の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 講座の企画を検討する作業部会の実施 健康市民おかやま 21 地域推進委員会の参加 児童館と連携し、あっ晴れ！もも太郎体操サポーター派遣 |

2 専門性を生かした福祉サービスを推進する

財団設立から現在に至るまで、高齢者・障害者・子ども等への総合的な支援を行っていますが、時代の経過に伴うニーズの多様化・複雑化や制度改正等に対しても、適切かつ柔軟に対応していかなければなりません。

今後も、これまで実施してきた事業の内容を精査しつつ、継続して実施することに加え、財団は「新たなサービスの開発、提供」という役割も担っているため、蓄積されたノウハウ等を活用しながら、各機関の機能を十分に発揮し事業を推進しました。

1 福祉のコンシェルジュ機能の強化

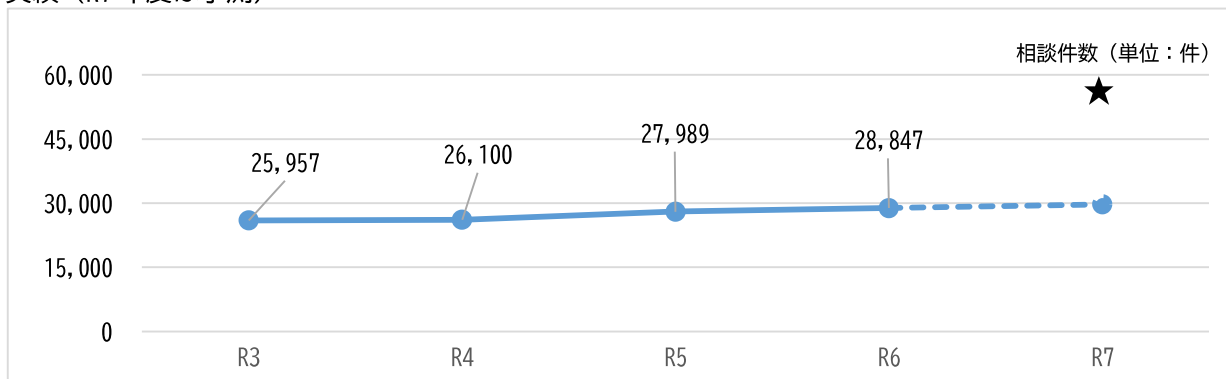
財団は、高齢者・障害者・子どもをはじめ、あらゆる人に専門的な福祉サービスを提供する、他には類のない機関です。その特性を生かし、福祉に精通したコンシェルジュとして、個人や世帯が抱える複雑・複合課題に対しても、制度・対象者の枠にとらわれず適切なサービスが受けられるよう、相談窓口の機能の充実に取り組みました。

○●設定された目標●○

◆ふれあいセンター等での相談件数（地域包括支援センター 総合相談支援）

R7 年度目標値：★59,000 件

・実績（R7 年度は予測）



取り組みの達成状況及び考察

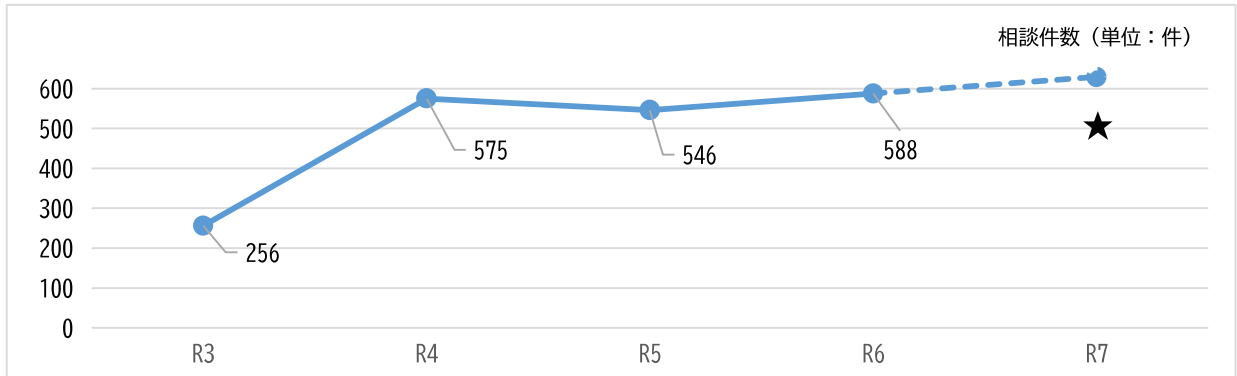
住み慣れた地域で安心して高齢者等が生活を送ることができるよう、必要な支援を把握し、地域の適切なサービス、関係機関及び制度の利用につなげる等総合相談支援を行いました。

市の高齢者人口が増えているため、相対的にその相談件数は増えており、積極的に地域に出向き、自治会等の地域の各種団体や医療・介護関係機関とのネットワーク強化を図りながら、総合相談支援事業についての周知活動を行いました。相談件数としては目標に至らない見通しとなりました。

◆ふれあいセンター等での相談件数（介護相談支援センター）

R7 年度目標値：★500 件

・実績（R7 年度は予測）



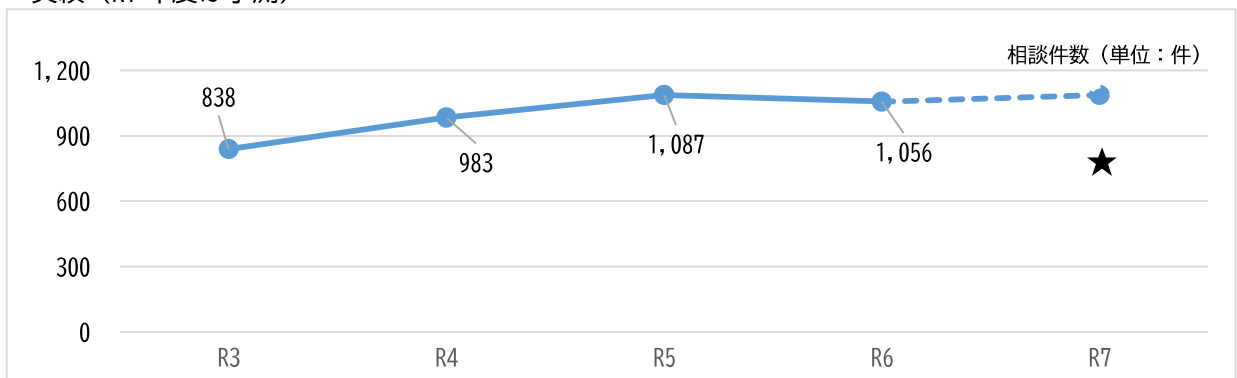
取り組みの達成状況及び考察

支援が困難なケースにも対応できる事業所として、介護や支援を必要としている高齢者に対し公正な視点でサービス計画を作成し、サービス提供機関との連絡・調整の強化を図りながら、より質の高い支援を行いました。

定期的に市内や近隣市の医療機関の地域連携室を訪問して連携強化を図ったことにより、相談件数は増加し、R4 年度以降は目標達成しました。

◆ふれあいセンター等での相談件数（児童館 地域子育て支援拠点事業） R7 年度目標値：★800 件

・実績（R7 年度は予測）



取り組みの達成状況及び考察

子育て中の親子が気軽に集い相互に交流できる場を児童館において提供し、子育てに関する不安や悩みの相談援助を行いました。保護者からの相談件数は年間 1,000 件を超え、目標値を達成しています。

日頃のイベントや遊びの場を通じて児童館職員と親子との間に信頼関係を築き、保護者が安心して相談できる環境を整えており、また、児童館で行う子育て講座は、歯科衛生士や管理栄養士等専門家にも直接相談できる機会として保護者の不安を軽減する手段ともなりました。

◆その他取り組み事項

| 重点取り組み項目 | 具体的検討例 | 実績等 |
|--------------------|---|---|
| 福祉サービスの総合相談窓口の機能強化 | 「ふれあいセンター・ウェルポートなださき」における総合案内機能・情報提供機能の強化 | <ul style="list-style-type: none"> 福祉コンシェルジュ研修の実施 勉強会（館内表示やチラシ作成等）の実施 |
| 効果的・魅力的な情報発信 | SNSやホームページを活用した効果的な広報活動の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 財団 Instagram や Facebook での広報 ホームページへの掲載 YouTube や岡山市 LINE セグメント配信等 |
| 災害時の被災者支援 | 災害時の被災者支援 | <ul style="list-style-type: none"> 福祉避難所及び避難場所の開設時の管理運営及び必要物資の保管 福祉避難所研修へ参加 要援護者の把握 近隣施設の避難訓練の際、避難訓練場所として協力 |

2 地域を支える福祉サービスの提供・開発及び調査・研究

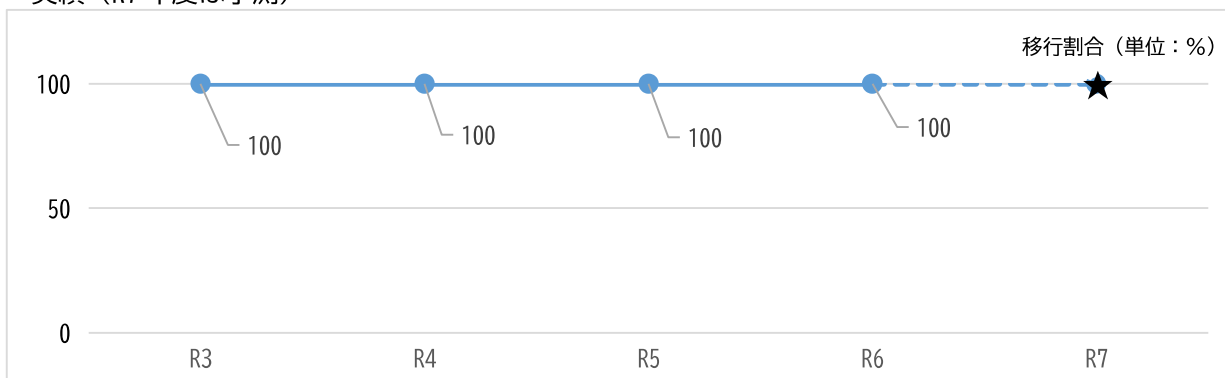
地域資源を有効に活用・活性化し、これまで築いてきた多様なネットワークを生かして事業を展開することで、地域に密着した福祉サービスの提供に努めました。また、地域のニーズに応じて、よりきめ細かく専門性の高い新たなサービスの提供に向けて、調査・研究にも取り組みました。

○●設定された目標●○

◆共生型デイサービスへの移行

R7 年度目標値：★100%

・実績（R7 年度は予測）



取り組みの達成状況及び考察

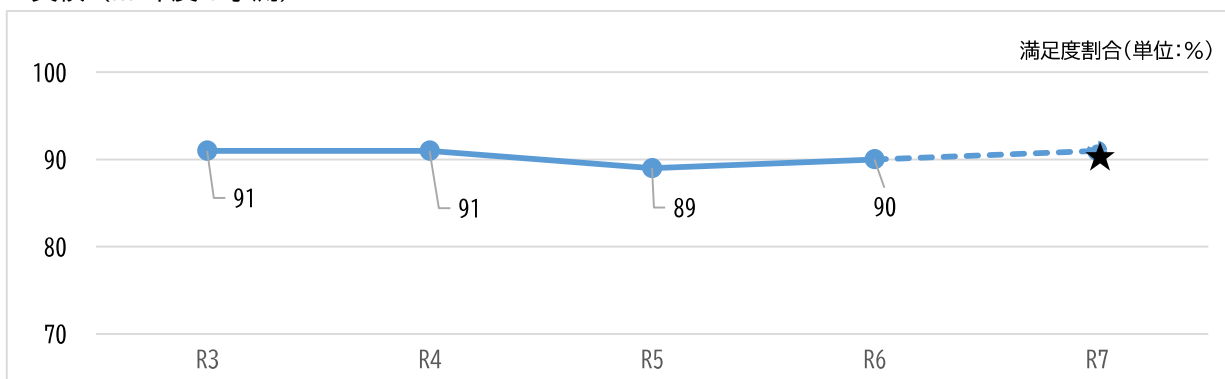
障害者の方が65歳になり介護保険の適用に変更されても、通いなれたデイサービスをそのまま利用し続けることができるように、同時一体的にサービスを提供する共生型デイサービスへ移行を進めました。

早期に体制づくりを進めたことでR3年度までにすべての事業所が共生型デイサービスへの移行を完了しました。

◆介護保険サービスや障害福祉サービスの利用者満足度

R7 年度目標値：★90%

・実績（R7 年度は予測）



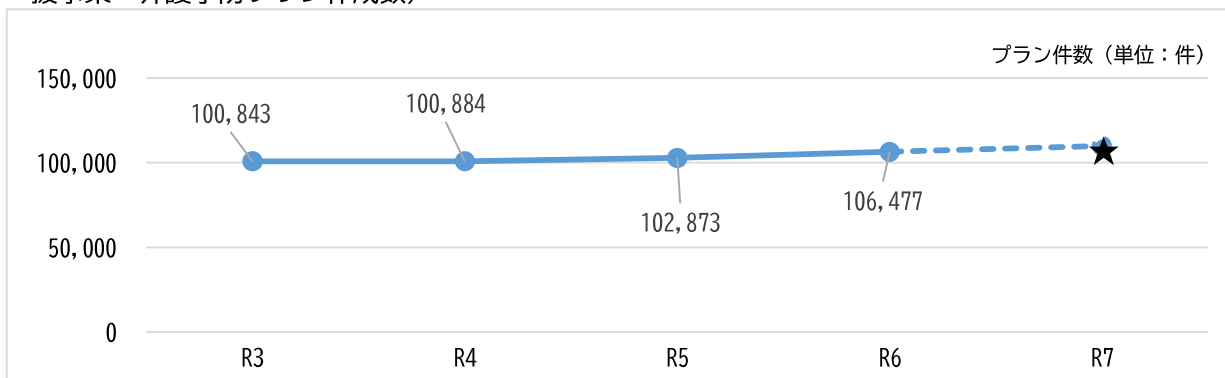
取り組みの達成状況及び考察

多様化する利用者ニーズを的確に把握し柔軟に対応するために、職員の接遇や提供サービスに対する満足度や改善点等について、利用者の声を幅広くアンケート調査しています。
 サービス満足度に関しては、「居宅介護事業所」や「訪問介護事業所」で特に高い評価をいただいでおり、全体としても概ね 90%の満足度で推移することができました。
 アンケート結果の詳細な分析を行うとともに、職員の人材育成にも力を入れ、サービスの質のさらなる向上を目指してまいります。

◆介護プラン作成数

R7 年度目標値：★103,000 件

・実績（R7 年度は予測）（ケアマネジメント事業・介護プラン及び介護予防プラン作成数、地域包括支援事業・介護予防プラン作成数）



取り組みの達成状況及び考察

要支援者・要介護者の方々に対しては、心身の状態に応じて、本人の意思を尊重しながら、適切なサービスが包括的かつ効率的に提供されるよう支援を行いました。
 介護プラン数については、岡山市の高齢者人口の増加とともに、緩やかに増え、プラン件数としては R6 年度に目標達成しました。

◆その他取り組み事項

| 重点取り組み項目 | 具体的検討例 | 実績等 |
|------------------------------|-------------------------------|--|
| 「地域包括ケアシステム」の推進 | 多様な主体との連携を生かした「地域包括ケアシステム」の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携会議への出席 ・小地域ケア会議への出席 ・地域ケア個別会議の開催 |
| 「地域共生社会」の実現に向けた地域での支え合い活動の推進 | 地域での支え合い活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心ネットワーク講座の開催 ・子育て応援スタッフ養成講座の実施 ・地域づくり会議への出席 |
| 公益法人としての事業の推進 | 在宅福祉サービス従事者の養成 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員初任者研修の実施 ・生活支援訪問サービス従事者研修の実施 ・福祉用具専門員指定講習会の実施 |

3 組織の実行力を高める

医療・福祉の専門職集団として質の高い地域福祉サービスを提供するために、組織の実行力を高める取り組みを行いました。

職員が生き生きと働くことができる環境整備に努めながら、効率的な組織体制を構築し、職員全員が同じ目的・目標を持ち一丸となって市民福祉の向上に取り組める組織風土を築きました。

1 効率的な組織体制の構築

福祉サービスを提供する組織として適正な体制の構築と人員配置を行い、多様化する業務に弾力的に対応できる組織運営を行いました。さらに、採用活動においては、教育機関等との連携強化や広報手段の見直し等、組織全体を挙げて尽力しました。

働き方改革の推進を行う上では、仕事の効率化を図る勤怠管理システムの導入や時間外労働の削減、育児休業や年次休暇の取得促進等を実施しました。職員が安心して業務に従事できる職場環境を整えるため、カスタマーハラスメント対策として、マニュアルや啓発ポスターの作成等を行いました。

また、事業継続計画の概要を策定し、具体的な運用や詳細な取り決めについて事業ごとの検討や策定に取り組みました。

2 健全な経営の推進

公益目的事業を継続して実施するため、収支均衡が維持できるよう努めました。令和7年度の公益法人制度改革により、資金の活用幅が広がり、将来の公益目的事業への投資がしやすくなったため、公益充実資金の活用等を図りました。職員一人ひとりにおいても、予算執行管理・契約等の知識を習得することで経営の透明性の保持と効率化や意識付けを行い、組織力の底上げを図りました。

また、適切な予算の管理・執行のため、契約事務処理規則や会計処理規則の策定を行いました。

3 地域福祉を担う職員の育成

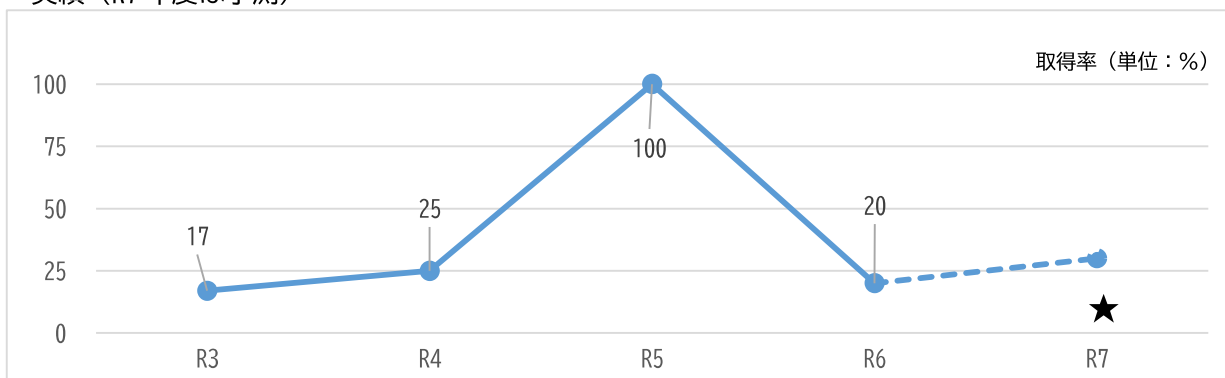
職員の人材育成のため、階層別研修や職種別研修を実施したほか、専門職は学会に参加し知見を広げる等、地域福祉を担う職員の資質向上を図りました。また、メンタルヘルス、コンプライアンス遵守やカスタマーハラスメント対策といった、職員が抱える課題に応じた研修を実施し、職員自身の課題解決を目指しました。

○●設定された目標●○

◆育児休業の取得率（男性）

R7 年度目標値：★10%

・実績（R7 年度は予測）



取り組みの達成状況及び考察

働き方改革の一環として、男女ともに働きやすい職場づくりを目指し、男性職員に対する育児休業の取得を積極的に促進しました。

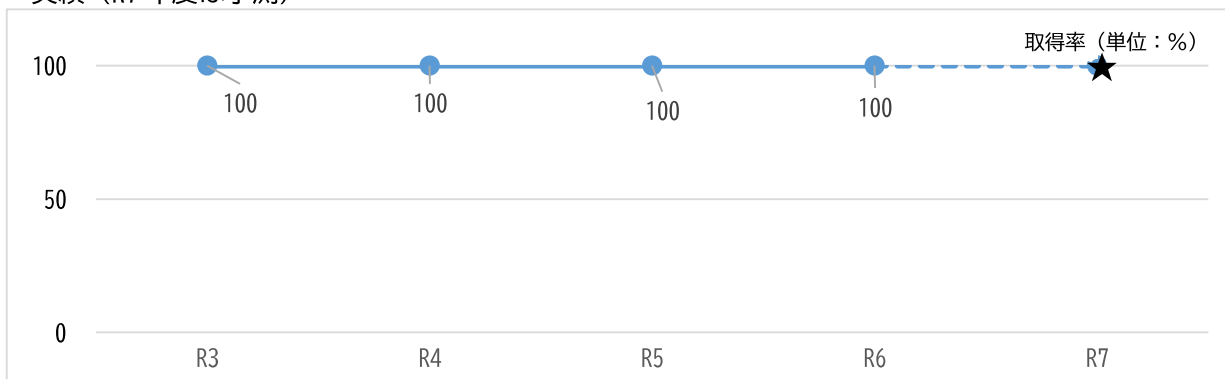
R5 年度は対象者が1名だったため取得率はおのずと100%になりましたが、例年では概ね2割程度の取得率を維持しており、育児休業取得に関する目標は順調に達成できる見通しです（R3～R6の対象者計17人に対し4人が取得しました）。

収入面等の理由から当事者自身が育休取得に消極的である現状もありましたが、時代とともに男性職員にも育児休業取得の機運は高まりつつあります。今後は、仕事と育児の両立に関する制度の周知や、男性も育休を取得しやすい職場環境の整備等を行っていく必要があります。

◆育児休業の取得率（女性）

R7 年度目標値：★100%

・実績（R7 年度は予測）



取り組みの達成状況及び考察

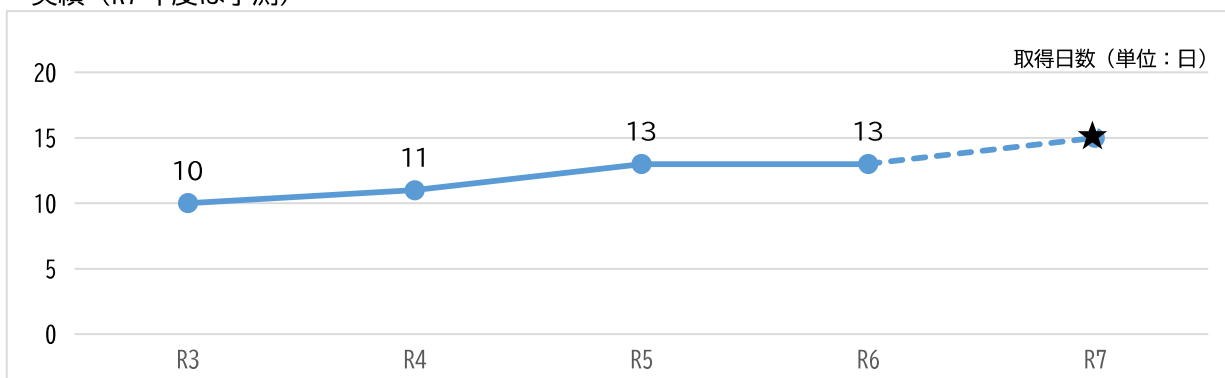
女性職員が多い職場であることから、産休・育休に対する理解が職場全体に浸透しており、パートタイム職員にも制度が適用される等、組織的な支援体制が整っています。その結果、育児休業の取得率は100%を維持しました。

さらにR6年度には、「おかやま子育て応援宣言企業」の中でも、特に子育て支援に積極的な取り組みを行う「アドバンス企業」として認定されました。今後も、職員一人ひとりが安心して働き続けられる環境づくりを推進し、子育てと仕事の両立を支援してまいります。

◆年次休暇の取得日数

R7 年度目標値：★15 日

・実績（R7 年度は予測）



取り組みの達成状況及び考察

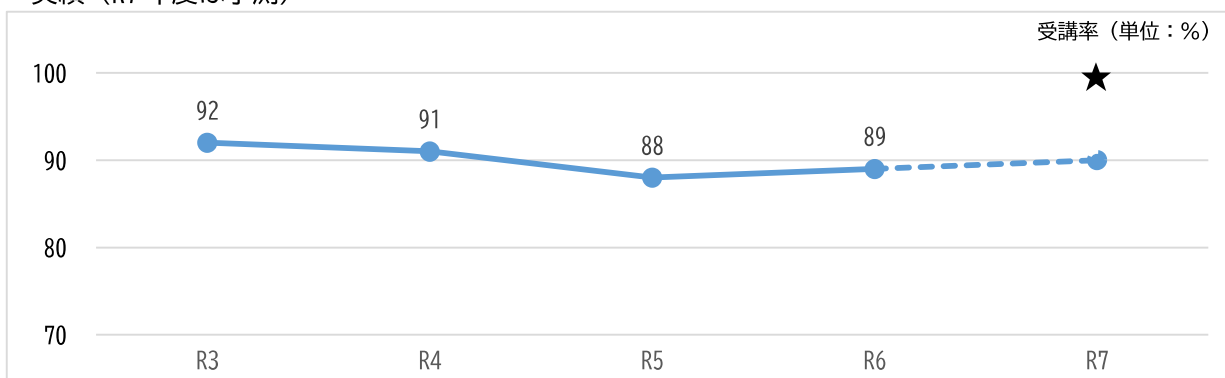
働き方改革の推進により、効率的な組織運営と職員が働きやすい環境づくりを目指し、年次休暇の取得を促進しました。

ローテーション勤務の部署では、休暇取得の調整が必要な場合もありますが、取得日数は少しずつ増加傾向にあり着実に改善が進んでいることから、目標達成に向け、様々な対策を検討していきます。

◆職員研修の受講（階層別研修 受講率）

R7 年度目標値：★100%

・実績（R7 年度は予測）



取り組みの達成状況及び考察

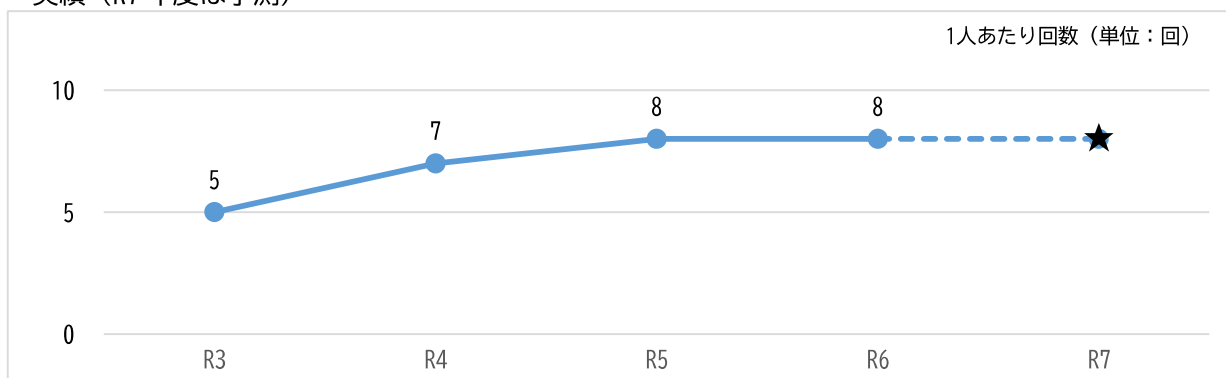
職員一人ひとりがそれぞれの役割を認識し、組織全体の力を高めるための階層別研修を毎年実施しました。約 90%の受講率を推移していますが、業務都合によりやむを得ず出席できない職員は、毎年一定数いました。

欠席者への対応として個別フォローは実現が難しいため、できるだけ決まった日時に出席できるよう、受講者本人と周囲への周知を図る必要があります。

◆職員研修の受講（福祉・医療等専門職のスキルアップ研修 受講回数）

R7 年度目標値：★8回

・実績（R7年度は予測）



取り組みの達成状況及び考察

知識・技術の向上によりサービス力を強化し、市民福祉の向上に資することができる職員を養成するため、職員研修を実施するとともに受講勸奨を行いました。
専門職自身が研修の企画を行うこと等もあり、充実した取り組みが行われました。

◆その他取り組み事項

| 重点取り組み項目 | 具体的検討例 | 実績等 |
|-----------------|-----------------|--|
| 効果的・効率的な組織体制の検討 | 採用活動の強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・メディア出演やSNSの活用 ・学生向けには学校訪問や個別の就職相談会 ・児童クラブとの交流会やインターンシップ |
| 緊急時における事業継続の視点 | 事業継続計画の策定 | <ul style="list-style-type: none"> ・全事業で事業継続計画を策定 |
| 財団職員の人材育成の推進 | 内部研修の継続実施と拡充・強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・全職員対象の研修の実施（人権研修等） ・課題に応じた研修の実施（パワーハラスメント等） ・人材育成ガイドラインの作成及び研修の実行（地域包括支援センター） |